

# 「次世代参加型まちづくり」に向けて

(「次世代参加型まちづくり方策小委員会」とりまとめ(概要))

平成15年12月

## 「次世代参加型まちづくり」の捉え方

### (意識の変化と参加型まちづくりの動き)

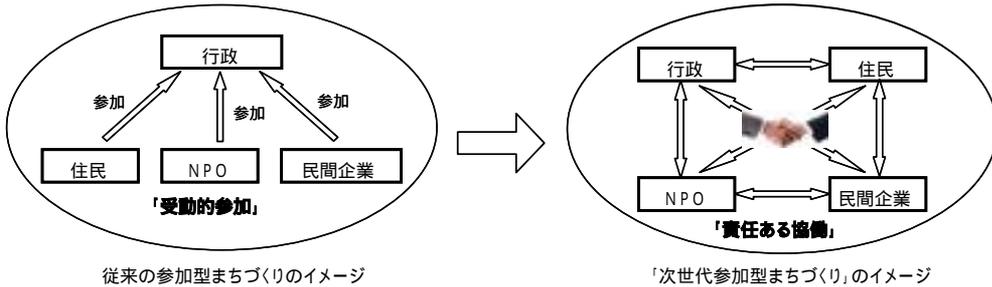
- 人々の意識の変化…横並び・画一的なまちづくりから個性的・魅力的なまちづくりの推進へ
- 地域住民等の発意と選択によるまちづくりが益々重要 本格的な人口減少時代の到来、投資余力の減少等
- しかし、先進的な取組みを展開している地域が存在する一方、全国的には参加型まちづくりが地域に定着するに至っていないのが実情 地域による状況の差の存在、住民参加関連の制度の普及・定着が課題

**「国から地方へ」「官から民へ」という流れを踏まえ、参加型まちづくりのより一層の定着と展開を図り、さらに「次のステップ」(=「次世代参加型まちづくり」)を刻むための基本的な考え方と方策についての方向性を示すことが課題**

### (「次世代参加型まちづくり」の枠組み)

- 「次世代参加型まちづくり」の3つの基本要素:  
**参加の「機会の窓」の開放 参加主体間の相互関係の多様性の確保 参加主体における社会的責任の相互確認**
- さらに、社会の仕組みとして確立していることが重要

**国・県・市町村による、行政が主役の「タテ型」のまちづくりから、行政・住民・NPO・民間企業・大学等多様な主体の能動的な参加と責任ある協働による「ヨコ型」のまちづくりへ**



## 参加型まちづくりの成熟に向けての基本的考え方

- (1)発想の転換と定着 まちづくりは多様な主体による発意と協議によって形づくられていくものという発想への転換とその定着
- (2)透明性の確保 公平な参加の機会の確保と参加の手続きやルールの明確化。情報共有の徹底を通じた透明性の確保
- (3)柔軟性の確保 参加の枠組みを状況の変化や時代の変化に合わせてつくりかえていく柔軟性
- (4)実現性の向上 合意形成に向けての努力と一旦決定されたことの実現性の向上

## 参加型まちづくりの実効性向上のための方策

- (1)参加の裾野の拡大～参加の輪を広げていく～  
参加意識の向上……………生涯学習による意識啓発、まちづくり教育の充実  
早期段階からの参加の充実…まちのルールづくりにつながる基本的な選択の段階からの参加
- (2)参加のノウハウの向上～参加の仕方を豊かにしていく～  
情報共有の徹底……………様々な主体による情報発信と共有の徹底が第一歩。受け手の立場に立った工夫協議の実質化……………やりとりの充実、合意または合意されていない事項を節目ごとに情報共有  
参加の技術の向上……………「情報整理」「合意形成」「コミュニケーション」等の技術を磨く  
まちづくり現場でのノウハウの共有…全国の取組み事例の収集・整理と情報提供
- (3)参加の資源の充実～参加しやすい環境を整えていく～  
人材育成、専門家による支援…まちづくり専門家活用支援のための仕組みの確立、まちづくりリーダーの育成  
まちづくりの核となる地域組織の育成・支援…エリアマネージメント組織等の活動に対する支援  
公共空間の利活用の促進…エリアマネージメント組織、NPO等の活動の場として活用  
パッケージで財政的な支援…各地域の自発的な発想に基づき、ハード・ソフトを一括助成  
行政の幅広い対応……………窓口部局での「ワンストップ」対応の充実と横の連携、都道府県、国等のサポート